

周波数ひっ迫対策技術試験事務 平成28年度継続評価結果

| 案件名 | 実施期間 | 評価会での主なコメント | 評価点 |
|---|---------|---|-----|
| 移動型の携帯電話用災害対策無線通信システムに関する検討 | H27-H29 | <ul style="list-style-type: none"> ・新システムの適用シーンの検討、周辺携帯電話基地局等との机上干渉検討及び干渉回避技術の検討等、当初目標はほぼ達成されている。 ・新システムを搭載したりヘリの高度と地形の状況や複数ヘリが旋回する状況など、現実には起こり得る干渉環境についての言及がない。このシステムは極限のような状況で稼働させるのだから、うまくいかないでは済まない。もう少し実際の運用状況を考慮すべきと考える。 ・最終年度までに確実にヘリに乗せた実証実験までおこなうことを期待する。 | 4.0 |
| 新たな携帯電話システムの導入に関する技術的条件の検討 | H26-H28 | <ul style="list-style-type: none"> ・衛星ダウンリンク地球局とLTE-Advancedとの共用等、検討については一定の成果が得られている。 ・100MHzを超える帯域幅に対応した基地局RFデバイスの特性試験においてDPDの性能評価を行うとあるが、その成果に期待したい。 ・技術的課題に加えて、他システムとの干渉に関しては国際的環境も地域により異なるので、率先して技術的先見性を示す必要がある技術試験技術であり有益です。 | 4.0 |
| 公共分野におけるブロードバンドシステムの利用拡大のための技術的条件に関する調査検討 | H26-H29 | <ul style="list-style-type: none"> ・検討項目毎にきちんとまとめがなされ、かつ、技術基準のための原案もまとめられていることから、十分に目標を達成していると判断される。 ・200MHz帯公共移動通信システムの技術的課題を明確にするための試験事務になっていると考えられる。 ・海外動向調査もふまえて、実際に近い条件を入れた成果を出すこと。 | 4.1 |
| Ka帯を用いた移動体向け海上ブロードバンド衛星通信技術に関する検討 | H27-H28 | <ul style="list-style-type: none"> ・2年計画の初年度としては目標を達成していると判断される。 ・定めるべき技術基準をにらみ、来年度検討の早い段階で技術基準の想定案を作成してどのような項目や実験を行うべきか明確にしておくべきと考える。 ・海上ブロードバンドサービスは国内200海里だけではなく、世界の海を対象としたマーケットが主流になると思われる。インマルサットやインテルサットの市場動向と比較し、本実施計画がビジネスとして成り立つかどうかの判断が必要である。 | 3.7 |